

平成 26 ( 2014 ) 年度 教員活動報告書 ( 1/3 )

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	准教授	氏名	ヒラ 平	ツカ 塚	ソトム 力
学歴	平成 3年 3月 龍谷大学文学部史学科 卒業 平成 6年 3月 龍谷大学大学院文学研究科国史学専攻修士課程 修了 平成16年 3月 東北大学大学院経済学研究科現代応用経済学専攻修士課程 修了 平成19年 3月 東北大学大学院工学研究科技術社会システム専攻博士課程 修了						
学位	平成 6年 3月 文学修士 ( 龍谷大学 ) 平成16年 3月 経営学修士 ( 東北大学 ) 平成19年 3月 工学博士 ( 東北大学 )						
専門分野	経営組織論						
専門資格	博物館学芸員、社会教育主事任用資格						
所属学会	平成16年 9月 組織学会 平成16年12月 日本高等教育学会						
受賞	平成10年 3月 秋田県能代山本広域市町村圏組合主催 世界遺産白神山地周辺域利活用全国公募論文「白神自然文化賞」大賞受賞						
担当 授業科目	学 部 非営利組織論、社会起業論、経営戦略論、外国語専門書講読、総合社会学基礎演習、総合社会学演習、現代社会研究演習、現代社会研究演習、						
論文指導	論文指導 ( 卒論 : 0 名 ) 論文審査 ( 卒論 : 0 名 )						
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数			
	経営戦略論	講義・演習・実習・実験	春・秋	16名			
	授業の概要：経営学の基礎を学び、企業経営行動（経営戦略）を理解する。						
	教育活動の振り返り 教育活動の成果： 本講義は、経営学の基礎を学び、その知見をもとに企業経営行動（経営戦略）を分析する能力の涵養を目的としている。学生が、経営学における抽象的な概念を、企業における実際の経営行動と一致させることができたという意味で、当初の目的は達成された。 今後の課題： 本講義の受講生は、必ずしも経営学を専攻している学生ではないため、基礎の学びに回数を充てる必要がある。そのため、応用的または例外的な事象を説明する時間が確保できないため、学習の深化という課題が残された。						
	・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 平成26年6月、日本高等教育学会第17回大会IRワークショップ「日本的IRをどう作るか」（於：大阪大学）に参加。 ・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 特になし。						
H26 年度 研究課題	1. 大学の経営改革過程に関する実証研究 2. ソーシャルビジネスのマネジメントに関する国際比較研究 環境保全型ビジネスを中心に						

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/3)

<p>平成 二六 (2014) 年度の研究活動の概要</p>	<p>1. 大学の経営改革過程に関する実証研究 今日の大学経営には二つの問題が存在する。一方は実務者世界の問題であり、大学は管理制度・政策を所与とし、その適応(充足)を自己目的化する思考停止的な経営改革から必ずしも脱却したわけではない。もう一方は研究者世界の問題であり、大学が制度充足を目的化する近視眼的改革から脱却し、ミッションレベルから自己をつくり変える長期的で抜本的な改革過程が研究の空白域となっている。そこで本年は、経営実務者世界における問題解決への理論的貢献を最終ゴールとし、大学を研究対象とする研究者の世界について調査した。</p> <p>2. ソーシャルビジネスのマネジメントに関する国際比較研究 本件はエコビジネスによる地域振興という観点から、体験型観光事業におけるマネジメント問題について調査したものである。 エコビジネスとしての体験型観光事業は、階層的な問題を抱えている。上層は、事業全体のマネジメントであり、域内の体験型観光事業の統括・調整を図る推進母体組織の問題である。また下層は、体験プログラム、宿泊、移動交通など、実際に顧客にサービスを提供する事業者の問題である。 本年の調査では体験型観光事業のマネジメントが抱える問題の階層性を整理した。</p>
<p>平成 二六 (2014) 年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書) (論文) (学会報告、学会活動) 1. 「大学経営研究のアポリアとしての脱制度化」、単独、平成26年6月、日本高等教育学会第17回大会、大阪大学 (発表講演論文集pp.58-59) (その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) (調査活動) 1. 大学の経営改革過程に関する実証研究 今日の大学経営に存在する二つの問題について、以下を明らかにした。 (1) 大学経営の実務者世界において、政府が示した管理制度・政策を所与とし、その適応(充足)を自己目的化する思考停止的な経営改革に陥るメカニズム。 (2) 研究者世界において、大学の経営改革過程が研究の空白域が生じるメカニズム。 2. ソーシャルビジネスのマネジメントに関する国際比較研究 本年の調査では体験型観光事業のマネジメントが抱える問題の階層性・事業全体のマネジメント問題(上層的問題)、顧客にサービスを提供する事業者の問題(下層的問題)を整理した。 (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) (学内活動) 宗教委員会委員、図書館委員会委員</p>
<p>平成 二六 (2014) 年度の 社会における活動</p>	
<p>平成 二一 ～ 二五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書) (論文) 1. 「わが国における高等教育研究の脱制度化に関する一考察 構成主義的な大学経営研究を意図して」、単著、平成25年3月、東京大学教育学研究科 大学経営政策研究3号 (pp.53-80) (学会報告、学会活動) 1. 「大学経営の研究領域に関するエスノグラフィー 大学経営研究に空白領域が出現することの意味とメカニズム」、単独、平成21年6月、組織学会研究発表大会、東北大学 (発表講演論文集pp.217-220) 2. 「制度の企業家という概念に基づく大学の戦略的経営に関する一考察」、単独、平成22年5月、日本高等教育学会第13回大会、関西国際大学 (発表講演論文集pp.234-235)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/3)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	<p>(学会報告、学会活動 つづき)</p> <p>3. 「大学経営研究の変容に関するエスノグラフィー 研究者の意味世界との接触を通して」, 単独、平成23年5月、日本高等教育学会第14回大会、名城大学 (発表講演論文集pp.62-63)</p> <p>4. 「わが国における高等教育研究の脱制度化に関する一考察 構成主義的な大学経営研究を意図して」, 単独、平成24年5月、日本高等教育学会第15回大会、広島大学 (発表講演論文集 pp.25-26)</p>
	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>平成22年度 京都府内の私立大学の経営改革に関する調査</p> <p>平成23年度 1. 大学の経営改革に関する調査 2. 社会的企業における経営者の役割に関する調査</p> <p>平成24年度 1. 大学の経営改革過程に関する実証研究 わが国の大学経営研究については、対象が制度や政策などの高等教育のマクロ的の事象に偏り、組織や経営の動態に焦点化したメソレベルの研究は手薄で、その活性化が課題であることが1990年代より指摘されてきた。しかしそれから二十年が経過した今日においても代替的な研究の登場は遅れている。こうした状況に対し、本年度は、その原因と構造とを大学経営研究の母体である高等教育研究という領域に遡って解明するための理論的研究を実施した。</p> <p>2. ソーシャルビジネスのマネジメントに関する国際比較研究 社会的企業は、ビジネスであるからには収益性が組織や事業の継続性を規定する。そして都市部と比較すると収益性という点で必ずしも恵まれていない地方農村部においては、如何にして継続性を高めているのか。本年度は、わが国の世界自然遺産の周辺地域においてフィールドワークを実施し、地方都市におけるエコビジネスのビジネスモデルについて考察した。</p> <p>平成25年度 1. 大学の経営改革過程に関する実証研究 長期的に見た場合、大学とは過去の機能や構造の上に、新たな機能や構造が堆積したものであり、歴史的な重層性を帯びている。このことは、現在生じている問題の源泉は、過去の機能や構造に手をつけなければ解決が困難であることを意味する。つまり大学の経営改革の研究においては歴史的な連続性に対応可能な方法論が求められるのであり、今年度はそのための研究アプローチについて考察した。</p> <p>2. ソーシャルビジネスのマネジメントに関する国際比較研究 エコビジネスによる地域振興という観点から、地場産業・観光・ツーリズムを考察した場合、最初の課題は、何を以て地域振興とするのか、つまり地域振興の定義である。</p> <p>そこで本年度は、経済的な効果、文化的な効果、教育的な効果、という複数のゴールを設定し、それぞれに対応した事例についてフィールドワークを実施し、エコビジネスとしての意義と課題を整理した。</p>
	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成20年度-平成21年度 共同研究「学生のキャリア形成に関する教育プログラムの研究」 (NPO法人 ライフマネジメントセンター)</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>平成22年 4月 人間学部研究報告編集委員会委員「平24.3まで」 図書館・情報委員会委員「平23.3まで」</p> <p>平成23年 4月 国際交流委員会委員「平25.3まで」 地域連携委員会委員「平24.3まで」</p> <p>平成24年 4月 人間学研究所所員「平25.3まで」</p> <p>平成25年 4月 宗教委員会委員「現在に至る」 図書館委員会委員「現在に至る」</p>
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	